

「屋仁小学校の島唄・シマグチ・八月踊り・棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

奄美市立屋仁小学校

2 学年・人数

1～6年生（計18人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

【島唄・シマグチ・八月踊り】

令和4年4月～令和5年3月 総合的な学習の時間
(本校ふれあいホール・体育館)

【屋仁棒踊り】

令和4年8月～10月 放課後（本校校庭）

(2) 発表の日時・場所

【島唄・シマグチ・八月踊り】

令和4年11月5日（土） 学習発表会（本校体育館）

令和5年3月23日（木） 卒業式（本校体育館）

【屋仁棒踊り】

令和4年10月2日（日） 小学校運動会（本校校庭）

令和4年11月9日（水） 市小・中学校音楽発表会（奄美文化センター）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

島唄・シマグチ・八月踊り（しまうた・しまぐち・はちがつおどり）

屋仁棒踊り（やにぼうおどり）

(2) 由来

島唄・シマグチ・八月踊り…古来より集落に伝承されてきた独自の唄や方言・踊りである。

屋仁棒踊り…現在より140年ほど前に、屋仁小学校の校舎移転があった。その際川内より大工が10人ほど来島し、屋仁の人々と協力して立派な校舎を作り上げた。落成記念として大工たちが川内に伝わる棒踊りを披露し、それに感銘を受けた住民たちが伝承させたと伝えられている。

(3) 構成等

島唄・シマグチ・八月踊り…三味線とチヂン（手持ちの太鼓）を用いて、シマグチの歌詞を唄う。代表的な唄に「朝花節」「いきゅんにや加那」がある。八月踊りは男女に分かれ、交互に歌いながら輪になって踊る。

屋仁棒踊り…低学年は太鼓に合わせて唄を歌い、高学年や中・高校生はそれに合わせて四人一組で2列の隊列を組み、掛け声をかけながら棒踊りを行う。唄の歌詞は落成の慶祝や風光明媚さの賛美を表している。

5 保存会や地域との連携の具体

- ・ 島唄・シマグチ・八月踊り

総合的な学習の時間に月に1～2回、地域の方を講師にお招きして三味線と島唄・シマグチ・八月踊りを学習している。校内では学習発表会や卒業式で発表するが、ウミガメ保護活動内でウミガメを海に放流するときに三味線や島唄で送り出している。

- ・ 屋仁棒踊り

9月に地域子ども会やスポーツ指導員と連携をとり、練習時間を設定している。現在運動会と市小・中学校音楽発表会で発表したが、かつては敬老会等でも披露していた。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、ここ数年発表の機会が少なくなってきたが、その中でも感染対策に留意しながら伝承及び活動を続けていくことができた。今後も形態を工夫しながら、活動の主体や目的を明らかにしつつ学校だけ、地域だけでない持続可能な体制づくりをしていきたい。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【練習の様子】



【運動会での棒踊り発表】



【学習発表会での島唄発表】

8 参加児童・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【1年生児童】

今年は棒踊りでは唄だったけど、3年生から総合的な学習の時間で習えるので三味線や棒踊りもかっこいいからやってみたい。

【教職員】

総合的な学習の時間に地域の講師を、放課後での練習で子ども会やスポーツ推進員との連携をとってきた。放課後の練習にも保護者がたくさん参加したり、発表の場で年齢関係なく地域・学校・保護者が楽しめたりするのを見てしっかり伝承することの大切さを感じた。

【地域の方から】

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で地域行事もなくなり、運動会の種目も減りましたが、子どもたちの棒踊りを見て元気をもらえました。来年はまた地域でもできたらよいと思いました。
- ・ 学習発表会で子どもたちが三味線を一生懸命弾いて歌っているのを見てとても良いと思いました。